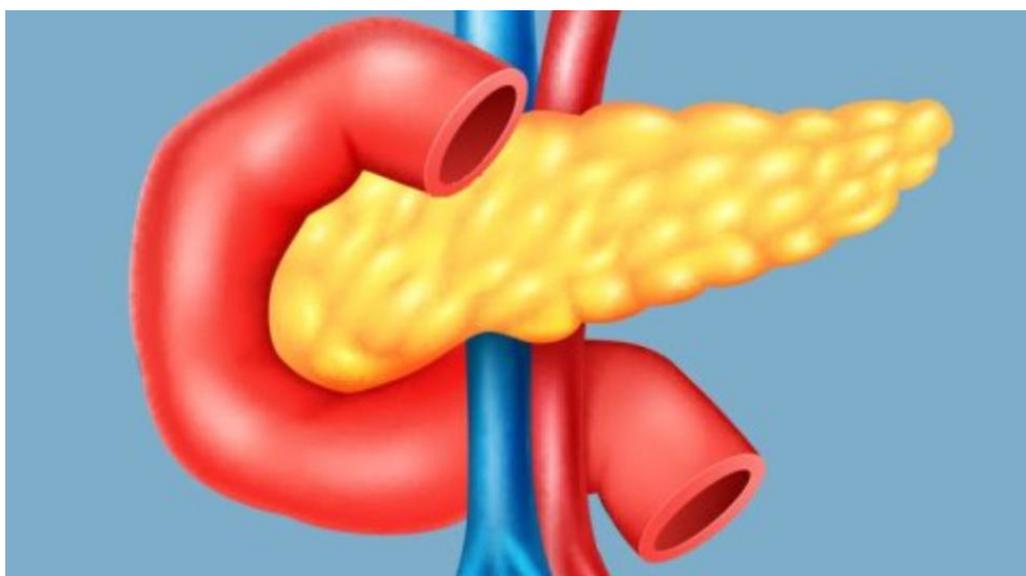
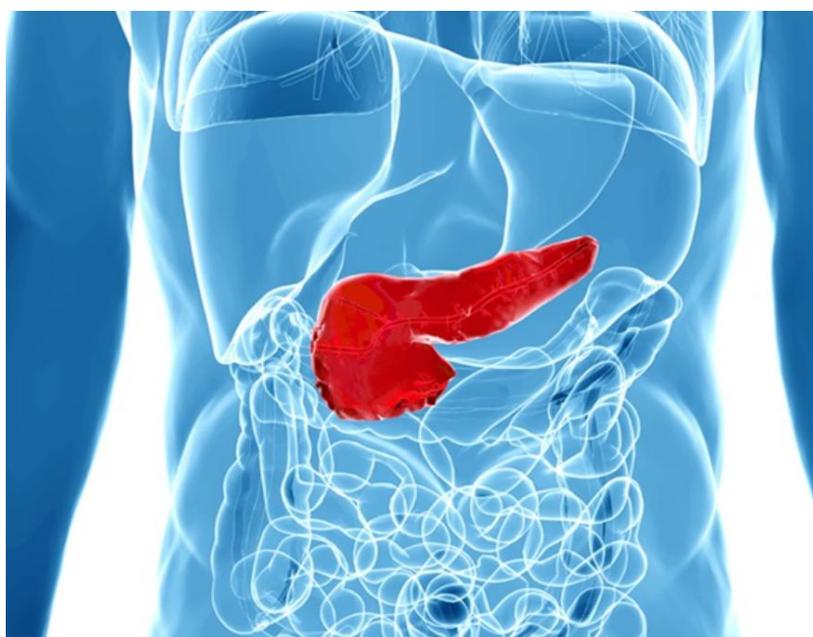


膵神経内分泌腫瘍に対するレンバチニブ

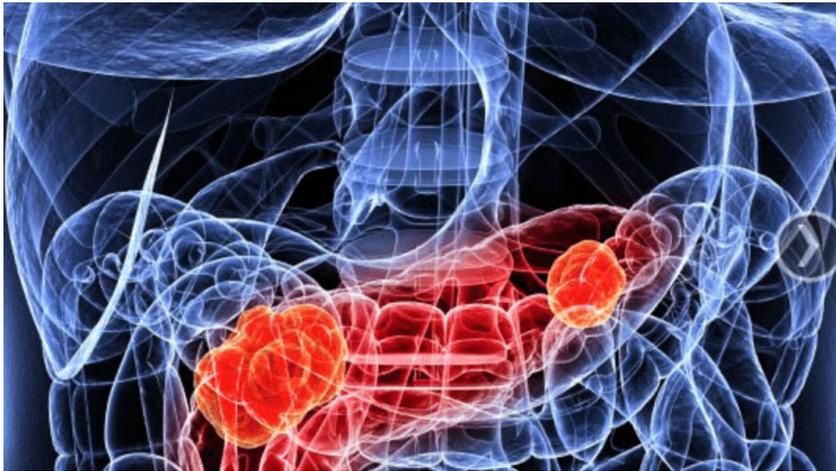
治療歴がある膵神経内分泌腫瘍（panNET）で高分化型（Grade1/2）の腫瘍を有する患者に対し、レンバチニブは高い抗腫瘍効果を示すことが、国際的なフェーズ2のTALENT試験から示され、欧州臨床腫瘍学会（ESMO2018）で発表されました。



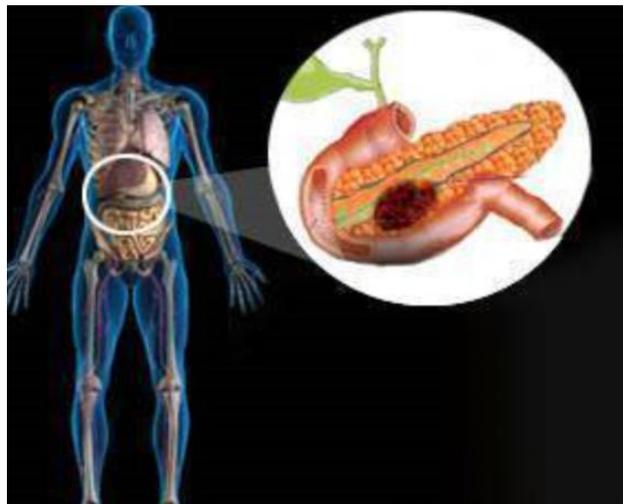
現在、panNET に承認されている治療は、ソマトスタチンアナログ製剤、化学療法、分子標的薬ではエベロリムスとスニチニブ、放射線核種標識ペプチド治療（PRRT）であります。



レンバチニブは、VEGFR 1-3、FGFR1-4 に対し強い親和性を有するマルチキナーゼ阻害薬です。



画像中央判定による奏効率は、全体では29.2%、panNET の患者では40.4%、giNET の患者では18.5%となりました。



レンバチニブの減量または中断は、88.6%、副作用による中止は10.9%。有害事象のほとんどは軽度で、グレード1/2の有害事象は90.7%、グレード3/4の有害事象は8.6%/0.5%。グレード5の事象は0.1%（1人）。グレード3/4の有害事象で多く観察されたのは、高血圧、下痢、疲労感などでありました。

